

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 昭61-185818

⑪ Int. Cl.
H 01 H 1/06

識別記号 庁内整理番号
Z-7161-5G

⑬ 公開 昭和61年(1986)8月19日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 電気接触子

⑮ 特 願 昭60-26890

⑯ 出 願 昭60(1985)2月14日

⑰ 発 明 者 上 田 亮 東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番6号 田中貴金属工業株式会社内

⑱ 出 願 人 田中貴金属工業株式会社 東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番6号 社

明 細 書

1. 発明の名称

電気接触子

2. 特許請求の範囲

台材の一端部に、貴金属又は貴金属合金材料をメッシュ状に編んだ接点プレートが接合され、その接合部の台材に複数の穴が穿設されていることを特徴とする電気接触子。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、スイッチ、継電器等に用いる電気接触子の改良に関する。

(従来技術とその問題点)

従来、スイッチ、継電器等に用いる電気接触子としては、第2図に示す如く台材1の一端部にボタン型接点2を抵抗溶接するからう付けした電気接触子3や第3図に示す如く台材1の一端部に接点取付穴4を穿設し、この接点取付穴4にリベット型接点5を挿通し、裏面で脚部をかしめ止めた電気接触子6が一般的である。

ところで、これらの電気接触子3、6を対にした継電器では、ボタン型接点2、リベット型接点5の接触部の材質によって差異はあるものの、接点閉閉時のアーク消耗が大きく、また構造上熱放散が悪い為、接点接触部の発熱が大きくて接触抵抗が増大し、溶着が発生し易いものである。

(発明の目的)

本発明は かる問題を解決すべくなされたものであり、接点閉閉時のアーク消耗を減少することができ、接点接触部の発熱を防止できて接触抵抗を低く安定させることができ、溶着の発生を抑制できるようにした新規な構造の電気接触子を提供することを目的とするものである。

(発明の構成)

本発明の電気接触子は、台材の一端部に貴金属又は貴金属合金材料をメッシュ状に編んだ接点プレートが接合され、その接合部の台材に複数の穴が穿設されていることを特徴とするものである。

(作用)

上記構成の電気接触子は、スイッチ、継電器等

